

1920年代

1 2 3 4

1950年代

5 6

1960年代

7 8 9 10 11

1980年代

12

2000年代

13 14 15

2010年代

16 17 18



1 三井信託本店ビル(三井本館)



2 住友信託本店ビル(旧住友ビルディング)



4 保管業務用金庫(三井大金庫)

1 三井信託 創業 (1924年)

信託業法に基づく日本初の信託会社として創業しました。

2 住友信託 創業 (1925年)

3 金銭信託の発展 (1920年代半ば～)

金銭信託に集積された豊富な資金を用い、電気・電燈、鉄道・軌道各社への長期貸出の一翼を担いました。

4 保管業務でお客様の財産をまもる (1929年～)

関東大震災を経験し、財産管理の重要性を痛感したことから、堅牢な大金庫を設置し、貸金庫および保護預かりの保管業務を開始しました。

5 銀行業務の開始 (1948年)

東京証券取引所、大阪証券取引所上場(1949年)



6 貸付信託の売出広告



7 信託車両第1号となる小田急電鉄の初代ロマンスカー

6 貸付信託で戦後復興、高度経済成長を支える (1952年～)

集まった資金を経済復興の牽引力となる電源開発、船舶建造などの産業基金へ直結させることにより、戦後復興と高度経済成長を支える資金供給者となりました。

7 動産設備信託で交通インフラ整備に貢献 (1956年～)

時代の要請に応じて、日本初の動産設備信託(車両信託)を受託。信託車両第1号となったのは小田急電鉄の初代ロマンスカーでした。その後船舶、バスなど受託対象財産を拡大させながら日本の交通インフラ設備に貢献しました。

8 証券代行業務の開始 (1958年～)

株主名簿管理などを行う証券代行業務に参入し、適切な名義書換や株券の管理等により資本市場の発展に貢献しました。



9 中央信託本店ビル



10 都市再開発事業 (六甲アイランド)

12 「ビッグ」パンフレット (住友信託銀行)

9 中央信託銀行 創業 (1962年)

10 年金信託の開始 (1960年代後半～)

高度経済成長の労働力確保や福祉増進に対応するため、企業(団体)の従業員が安心して働ける福利厚生制度を実現すべく、企業向けの適格退職年金などの取り扱いを開始しました。

その後も時代のニーズに合わせ、個人向けの年金信託、確定給付企業年金、確定拠出年金の取り扱いや、公的年金や共済等の運用・管理などに業務範囲が拡大していきました。

11 土地信託で新しい文化圏を創造 (1970～1980年代)

信託協会が1973年に開発した「土地信託」は、土地の有効利用を希望される所有者に代わって、専門家である信託銀行が管理・運用に関わる手法として、1980年代半ばごろから再開発事業と結び付いて本格的に発展しました。当グループは土地信託事業案件でのプロジェクト管理のノウハウなどを活かし、大規模な都市再開発プロジェクト(六甲アイランド)にも取り組みました。

12 新型貸付信託(ビッグ)の時代 (1981年～)

運用収益が再運用されることにより高利回りを実現し、金利選好を強めていたお客さまの間で大きな人気を呼びました。その後も実績配当型の金銭信託「ヒット」など、信託の機能を活かした貯蓄・運用商品が誕生していきます。



14 出前授業(環境教育)風景



15 社員投票で選ばれた100周年ロゴ

13 三井トラスト・ホールディングス発足 (2002年)

14 社会課題解決に取り組む (2000年代～)

社会奉仕的な財産管理機関としての側面も持つ信託銀行では、創業以来社会貢献を重要な指針としており、2000年代には日本初のSRIファンド(企業年金向け社会的責任投資ファンド)の取り扱いを開始し、その後も環境・金融教育などSDGsに先駆けて社会課題の解決に取り組まれました。

15 中央三井トラスト・ホールディングスに商号変更 (2007年)

16 三井住友トラスト・ホールディングス発足 (2011年)

住友信託銀行と中央三井トラスト・ホールディングスは、経営基盤の強化により一層の社会的責任と公共的使命を果たすとともに、幅広い業務分野で高い専門性を発揮することを目指して2011年に合併し、三井住友トラスト・ホールディングスが発足しました。

17 人生100年時代に向けて (2010年代～)

さまざまなライフステージを安心して明るく過ごし、個人のライフステージ・世代間の循環を円滑に進めるため、2019年には「人生100年応援信託(100年パスポート)」を取扱開始するなど、信託の力を活用した幅広いサポートを行っています。

18 創業100年 三井住友トラストグループに商号変更 (2024年)

これからの100年もその先も、お客さまとともにあゆんでいきます。